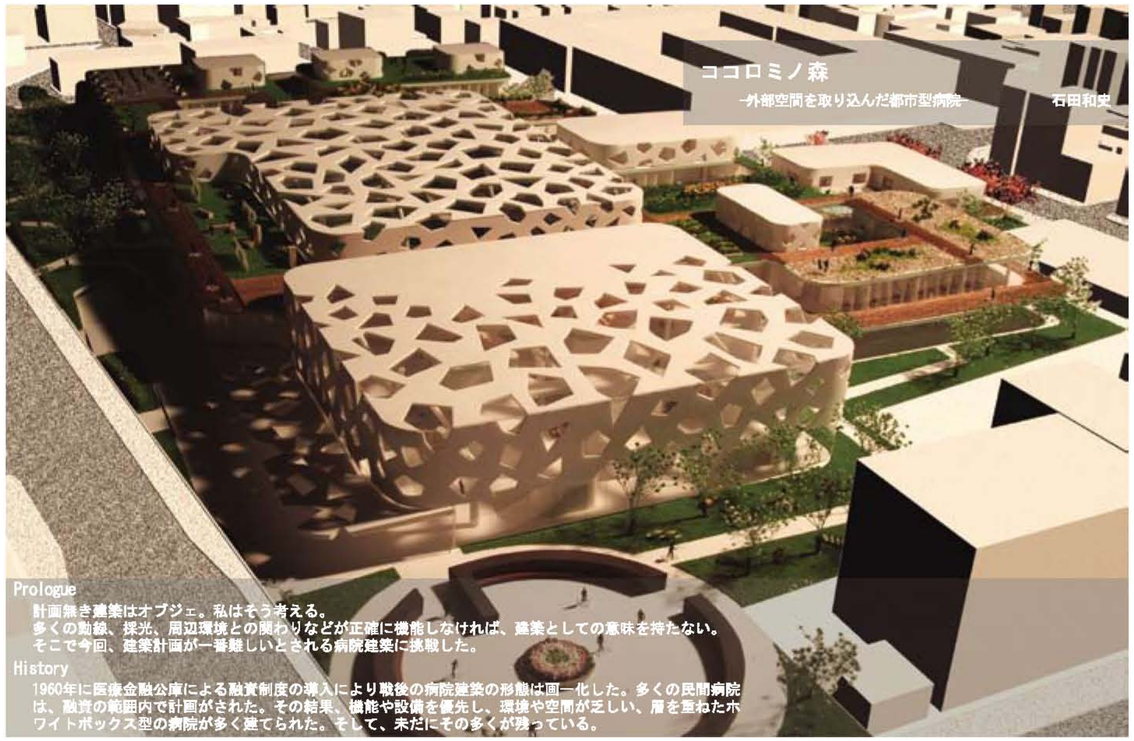
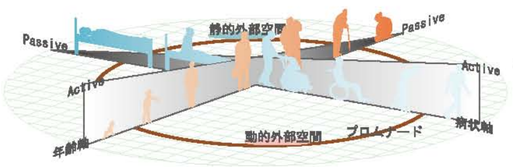


Program&Design

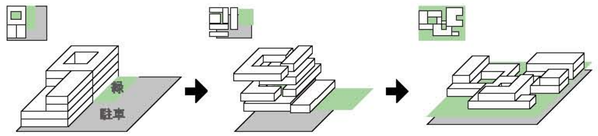
この計画では、主要五部門から成る病院に外部空間を取り込み、環境やアメニティを向上させ、癒し空間へと繋げる。その外部空間へ積極的にアプローチすることで、心のケア、治療への意欲、リハビリテーション効果が高まることを期待する。心身共に弱っている患者、そして患者のみならず、緊張を強いられる医療スタッフの息抜きの場所としても。

■外構計画



人のコンディションに外部環境のActivityを合わせる。
患者には、それぞれ動けるレベルが異なり、ベッドで一日を過ごす患者も居れば、比較的自由に動ける患者も居る。症状により千差万別だが、比較的内科系は静養し、外科系は動ける患者が多い。病院の屋根部分、中庭、デッキを使い病棟や病室の近くや、医療スッタッフの働く周囲に、様々な外部空間を取り入れる。そして、病院の周囲には周辺のサラリーマンや地域住民も使える、公開空地や広場、プロムナード取り入れ、色をつける。

■ボリュームの組み換え

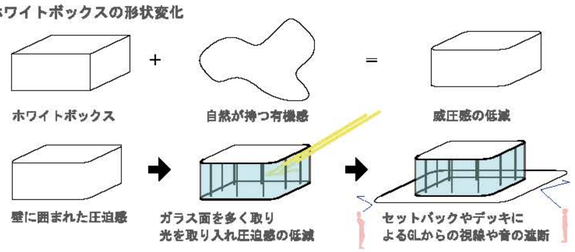


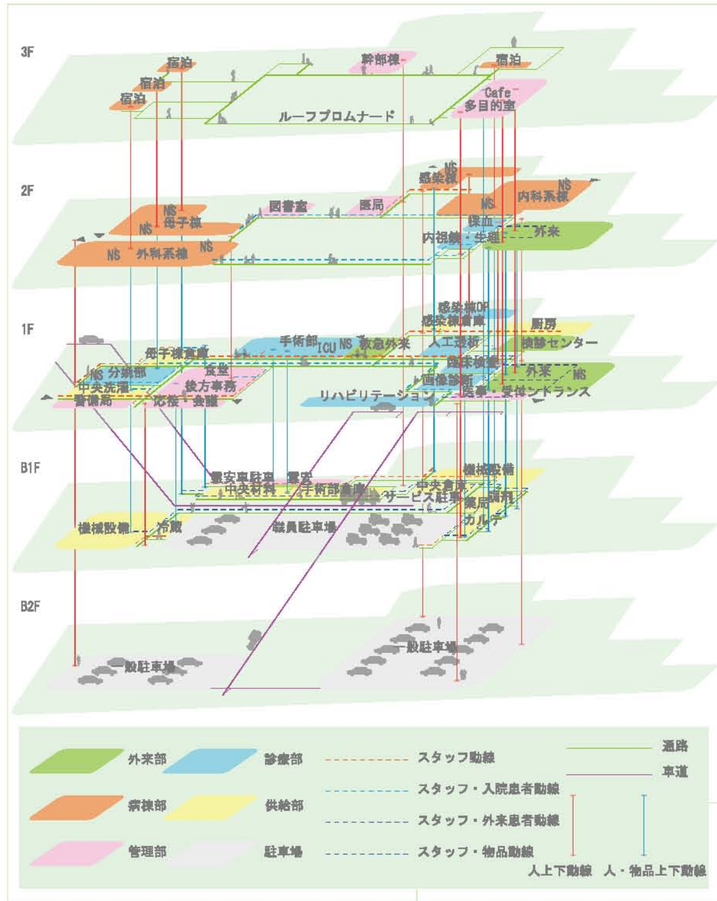
一般的な都市型病院に見られるホワイトボックス型の病院。
上下の動線のつながりが強いが採光や外部空間へのアクセスが厳しい。

都門ごとを分割し、緑スペースを広げ、駐車スペースをGLから地下へ隠す。

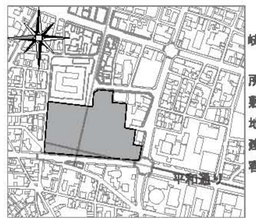
再構築。低層であり、平面の動線が強くなるが、光の入り、外部空間へのアクセス、移動空間における多様なシーン、溜まりが出来る。

■ホワイトボックスの形状変化





Site



岐阜大学医学部付属病院跡地
所在地 ：岐阜県岐阜市司町
敷地面積：約25,000口
地域 ：商業地域
建ぺい率：８０%
容積率 ：４００%

約130年病院として利用されてきた歴史ある土地。
駅前地区や金華山・長良川周辺地区を繋ぐ都市軸の中継地点であり、JR岐阜駅から『平和通り』で繋がる土地であり、行政、文化及び公益機能の集積地に位置する。
『平和通り』は戦前まで『凱旋通り』呼ばれており、戦時中に岐阜大空襲を受け、戦争と空襲の悲惨を二度と起こさない決意の名前として『平和通り』に改名したのである。この土地も空襲を受け、外来棟だけが残り、他は焼失してしまった。本計画では、戦争の記憶と恒久の平和への望みを込め、平和通りの軸の延長線を敷地に取り込み、それと直交するグリッドを基本として計画を行っていく。

Plan

講評

ひとは誰でも、精神的にあるいは肉体的に病むことがある。とくに現代においては、精神的な病が増加し、しかも対処的な治療や投薬だけではなかなか救われない場合が多くなってきている。そうした患者にとっては、「癒し」は自己治癒力を高めるうえで大きな効果があることが認められている。
そこで本計画では、そうした患者にとって「癒し」となるように十分に配慮された環境・建築空間を提供することを目的にし、それは同時にそこに勤務し患者と接するスタッフ達にとってもまた「癒し」となるような、誰もがその中にいて少しでも圧迫や緊張感から解放されるような新しい病院建築を提案しようとしたものである。

この計画案の大きな特徴は、半外部化された自然と光にあふれる広場を取り囲むように建物を配し、その広場は患者の年齢や病状に合わせて、日常的には眺める庭園であったりリハビリの庭園であったり、あるいはイベントの広場などとして、静から動（能動的行為）の場として活用される。そして災害時には、医療救急拠点としての機能も併せもつなど多様な使われ方の提案が盛り込まれている。さらに、この計画案の優れたところは、そうした全体構成や街に対する軸線の在り方等への配慮に止まらず、機能的かつ有機的な病院として、病棟部・診療部・外来部・管理部・供給部の５部門それぞれの内部と相互の関係性が大変良く練り上げられ計画され、しかも細かく表現されているところにある。造形的・空間的には面白くても、機能的・計画的にはさっぱり理解できない極めて独善的な作品が多々見受けられる中にあって、出入り移動する多様な人や物の種類・質・量・頻度・時間帯などの処理・管理など、とくに機能的に難しいとされる病院建築（実際には設備関係が更に大変ではあるが）に挑戦し、良く計画し得たことが多くの推薦を受けた大きな理由であると考えられる。恐らくこのプロジェクトに当たって制作者は、病院建築について相当量の研究・勉強をしたものと察せられ、その真面目な努力と計画力には大変好感がもてる。このように、平面計画がしっかり出来ている作品は、それなりに大いに評価すべきであろう。
建物の各階には、廊下や広場眺望デッキやルーフ・プロムナード等が中庭を取り巻くように配され、広場との関係性を演出する気配りがなされている。しかし少し残念なのは、それらの場所からの中庭の風景や、逆に広場の中に立った人の視点からの風景をもっと強く表現しアッピールして欲しかったことである。せっかく主題としたスペースであるから、もっとパースや模型写真などでその「癒し」の環境を見せて欲しかった。もう一つは、街側から見たときの建築の表情（立面）に関しても、中庭へ対するような細やかな気配りが欲しかったと思う。とにかく計画力はあるのだから、今後はさらにデザインについての勉強と成長に期待したい。